

●春の野草を味わう会 13 日（土）

4 月の気温は低く桜の花は何時までも咲き続けています。雨も冷たく散りゆくこともなく、13 日になっても満開から散り行くことには程遠いと感じられるものでした。里山農園のタンポポも咲き始めたころで、レンゲもちらほらでした。春を代表する花として、スミレも例年になく咲きほこりました。里山農園のあちこちに可憐な姿が目につきました。注意してみると紫の濃いもの薄いもの、中には白いものもありました。まだまだ新緑には遠いようですが、野草を摘む頭上の枯れ枝から、鶯のさえずりが降るように聞こえてきます。陽気は溢れるよう、春が満ち溢れています。

集合してきた皆さんは、いち早く七輪に炭を起こし、教育棟の掲示板に展示物を張り出し、天婦羅用の食卓を 5 台並べました。丸椅子を含めて 40 脚も並べました。持ち込んだ炊飯器に電気をつなぎご飯を炊きました。

開会式もそこそこに野草摘みに出かけました。近藤宏一グループ、湯川幸子グループの二つで採取に出発です。約 1 時間それぞれにリーダーから食べられるものかの判定を聞きながら摘み取りました。11 時前に採取と野草の学習を終わり、山の水で砂落としや枯葉の取り除き、硬い茎の部分の削除など食材を整え洗いました。並べてみますと 19 種類の野草が揃いました。

七輪にかけた天婦羅鍋を囲んで昼食が始まりました。火加減の強い鍋、弱い鍋、出来栄えはそれぞれ違いますが、一斉に「いただきます」と声を併せました。天ぷらつゆのお椀は前日に皆さんが竹やぶから切り出した淡竹を使って手作りで作り上げたものです。そして焼きゴテで焼き印を押したオリジナルなものです。これだけ多くの仲間と一斉に食べ始めた雰囲気にもよりますが、美味しい！の連発でした。香りも味も歯ごたえも、何よりも取りたての新鮮な野草ですから、そのおいしさは格別です。感嘆の声が響きました。頃合いを見て炊き立てのご飯もまた美味しかったこと、この上もない御馳走でした。特に出されたものに採りたての筍の刺身でした。今年はとんでもない不作の年になっていて、竹やぶにイノシシが出てこないほど最悪の不作です。筍農家さんは大不作に大弱りとのこと、とてもこんなに新鮮で美味しかったこの刺身はよほどのことがない限り口にできない大変な御馳走でした。

頃合いの 12 時 30 分になり、ごちそうさまを心から満足して合唱しました。これよりカスミサンショウウオ見学グループを金田徹さんが先導、白土山洞穴ルートには森島保さんをリーダーにして約 1 時間のハイキングに出発です。カスミサンショウウオ池では卵嚢が確認されました。洞穴コースは少し厳しいコースでしたが、白土掘削の洞穴に到達して、2 時 15 分には全員帰着しました。揃ったところで集合写真撮影、めいめいの持ち物を確認して来年の再会を約束して散会しました。

しかし 15 時頃になっても皆さんは余韻が残るのか会場にたたずんで三々五々語り続けておられました。心から満足出来た時の別れには、割りきって去り難い雰囲気が残るものです。いい取り組みになったと思われました。大勢のご参加有難うございました。亀岡市や京都市左京区から、右京区からの参加がありました。32 名の大勢の取組でした。いつも持ち込んでいただくニワトリ三羽が大変な人気で、子どもたちには大人気でした。普段はマンションでの生活なので、里山農園に解き放たれると彼らもうれしかったことだと思われました。

●木津川出張所の新所長山崎さんとの話を 16 日木津川出張所で行いました

播川 深田 太田 山村が出席しました。話し合った主な内容は次の通りです。

- 1：河川協力団体については、一昨年から認定を受けて、木津川希少種植生調査管理業務を受注し、木津川における希少種の維持保全に努めていること、そして 917 種の植物採集標本の維持保管場所の確保、除草作業機材の収納庫の継続使用について強く依頼。
- 2：中聖牛設置への協力については、京都大学と協力して、竹蛇籠の製作及び中聖牛の設置について積極的な協力を依頼。中でも蛇籠の製作にかかわって、真竹の提供 250 本の依頼、そして 30 本程度ずつの小分け提供
- 3：木津川流域センターの充実では、水没ドア体験設備の常設公開、教育施設への取組、デレーケについての資料充実、天井川関係の資料の収集などを提起
- 4：木津川流域センターの事務所機能の充実では電話 FAX インターネット等事務所機能の充実を要望
- 5：木津川右岸のプロムナードの設置では、安全観察通路の設置を強く要望
- 6：木津川堤防の強化工事カ所の予定表公開
- 7：イタセンパラの復活では、生息条件確保のために、雑木の伐採、そして二枚貝の復活から始まる条件整備の必要性を強調